

2-(1) ① 単元計画を作ってみませんか？



単元計画とは、各単元における学習指導の「基本計画」のことです。「授業の机上演習（リハーサル）」という意味を持ちます。

< 単元計画はなぜ必要か？ >

単元を通して身につけさせたい力を、より効果的に育成するために必要です。

※ 高校では、年間指導計画以外に単元計画を作成する先生は多くないようです。^{注1)}しかし、単元計画には次のようなメリットもあります。

- ① 単元のゴールをしっかりとイメージできるので、自信をもってゴールに向かって授業を進めることができる。
- ② そのため授業が迷走せず、時間が節約できる。

注1) 平成 21 年度調査研究授業アンケート結果より

< 単元計画作成上のポイントは？ >

- a 生徒の実態（これまでの学習状況や興味・関心等）把握
- b 単元のゴール（どんな資質・能力を伸ばすか）の明確化
- c 学習内容や活動の効率的な構成
- d 手だて（工夫・支援）の準備

※ a～dの詳細内容は、次のページをご覧ください。

2-(1) ② 単元シートの書き方

単元

「次」(つづ)とは、単元を構成する小単位のことです。

単元の配当時間を記入します。

	配当時間 () 時間	配当時間 () 時間	
生徒の実態			
次			
目標	各「次」の指導項目を記入します。		
学習内容	「生徒のゴール像」に記入した目標に到達するために必要な、各「次」の指導目標を記入します。		
手だて(全体・A層・C層)	各「次」の学習内容を簡潔に記入します。		
	配当時間 () 時間	配当時間 () 時間	

a 本単元の学習内容に関する習熟度、学習の前提となる既習知識や技能、単元内容に対する興味・関心等を記入します。事前アンケートや事前テストで本単元の学習に関する生徒の実態を把握することも大切です。

b 学習指導要領に示された目標を踏まえ、本単元を通して生徒に身に付けさせたい学力(指導目標)を記入します。

c 各「次」の学習内容を簡潔に記入します。

d 各「次」における「目標」を生徒に確実に身につけさせることができるように、教師が行う指導上の工夫や方策を記入します。生徒全体に対する手だてを考えた後、習熟度の高い生徒や理解の十分な生徒(A層)、習熟度の低い生徒や理解の不十分な生徒(C層)を思い浮かべ、それぞれに対する個別の手だてを考えておくといでしょう。

左の手だて欄に記入した工夫を簡潔に記入します。

単元終了後に、手だての有効性を自己評価します。
 1 効果がなかった
 2 あまり効果がなかった
 3 少し効果があった
 4 とても効果があった

生徒のゴール像

手だての有効性

①	1	2	3	4	
_ _ _ _ _ _ _							
...	1	2	3	4	
_ _ _ _ _ _ _							
1	2	3	4	1	2	3	4
_ _ _ _ _ _ _							

次の単元・次年度へ向けての留意点

手だてについて、どうい
う点がよかったか、どうい
う点を改善すればいいのか
を記入し、次回に生かして
いきます。

2-(1) ③ 単元シート 振り返り記入例

単元終了後、配当時間について、もう1時間必要であったという振り返りを記入しています

単元シート

単元 永 訣 の 朝
配当時間 (3 4) 時間 **4時間必要。**

生徒の実態

- 詩は難しいものだと考えている。(事前アンケート)
- 詩(韻文)と散文の違いをはっきりと区別できていない。
- 授業に対してやや消極的である。

赤い文字で振り返りを記入しています。



次	詩全体の概要把握	表現の特徴・心情把握・朗読	内容理解と心情把握
目 標	○詩を正確に音読できるようにする。 ○詩が作られた背景を理解する。 ○詩の構成を理解する。	○表現の工夫を理解する。 ○作者自身になったつもりで朗読することができる。	○表現・作者の心情の細部を理解する。 ○作者の理想や世界観について理解する。
学 習 内 容	○音読 ○人物関係の理解。 ○詩に読まれている場面や状況の理解。 配当時間 (1) 時間	○「雪」のイメージと「雪」に込められた願いの確認。 ○「ゆいり」の内容の確認。 ○全文朗読。 ○ペアで朗読。 配当時間 (1) 時間	○「雪」のイメージと「雪」に込められた願いの確認。 ○「ゆいり」の内容の確認。 配当時間 (1) 時間
手 だ て (全 体 ・ A 層 ・ C 層)	○黙読の後、音読をすることで、読めない漢字がないようにする。 ○詩の構成を理解しやすいよう、時間や場所に注意するように助言する。	○詩の内容を理解した上で <u>ペアで朗読をし、互いに評価をする。</u> ○朗読の専門家によるテープを聴く。	○ <u>ペア学習を行い、自分の意見を述べ、相手の意見を聞く。</u> ○前時との、時間・場面・心情の変化を理解する。 ○ プリントによるまとめの設問。 不要であった。

「ペア学習」という手だてが有効であったと自己評価しています。

手だてとして、不要であったと振り返っています。

手立てについて、よかった点と改善すべき点を記入しています。

生徒のゴール像	○詩に対する苦手意識を取り除き、興味・関心を持たせる。 ○詩的表現の特徴を理解することができる。 ○自分で考えたり、自分の意見を述べるなど、主体的に学習に取り組むことができる。																				
手だての有効性	<table border="1"> <tr> <td>①発問の工夫</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>②板書の工夫</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>③ペアでの話し合いの工夫</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>④ペアで朗読し、互いに評価することの工夫</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> </table>	①発問の工夫	1	2	3	4	②板書の工夫	1	2	3	4	③ペアでの話し合いの工夫	1	2	3	4	④ペアで朗読し、互いに評価することの工夫	2	3	4	1
①発問の工夫	1	2	3	4																	
②板書の工夫	1	2	3	4																	
③ペアでの話し合いの工夫	1	2	3	4																	
④ペアで朗読し、互いに評価することの工夫	2	3	4	1																	
次の単元・次年度へ向けての留意点	ペアによる、意見交換と朗読の相互評価は効果的であった。詩の朗読は、部分的でも全員に発表させるとよい。そうなると、朗読の時間を1時間取る必要がある。ペアの組み方についても配慮が必要である。																				